

# 平成27年度病害虫発生予察指導情報（ネギ：さび病）

平成28年3月28日  
鳥取県病害虫防除所

## 1 情報の内容

3月中旬現在、県全域の春ネギにおいてネギさび病の発生が確認されています。今後の気象条件によっては夏ネギにおいても発病が増加する恐れがあるため、防除を徹底しましょう。

## 2 情報の根拠

- (1) 3月18日現在、県全域におけるネギさび病の平均発病株率は4.1%と高いものの、発生ほ場率が75.0%と高い。(表1)。
- (2) 本病は気温が15～20℃で、湿度が高いと発病が多くなる。今後の気象予報から、引き続き発病の増加が見込まれる。

## 3 防除上注意すべき事項

- (1) 被害葉等は伝染源となるのでほ場の近くに放置しない。
- (2) 発病後の散布は効果が劣るため、予防散布に重点をおく。発病前や発病初期には7～10日間隔でマンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤600倍液、ペンコゼブフロアブル500～600倍液など）、ラリー乳剤4,000倍液、ラリー水和剤2,000倍液、カリグリーン800倍液などを散布する。
- (3) すでに多発しているほ場においては、アミスター20フロアブル2,000倍液、ストロビーフロアブル2,000倍液、ベルコート水和剤2,000倍液、オンリーワンフロアブル1,000倍液あるいは、オンリーワンフロアブル1,000倍液にカリグリーンを800倍で混用して散布する。
- (4) 同一成分及び同系統の成分を含む薬剤は連用しない。また、成分ごとの総使用回数及び収穫前日数に注意して薬剤を選定する（表2、表3）。

表1 県白ネギほ場におけるさび病の発生状況（3月17、18日調査）

地点	調査ほ場数	発生ほ場数	発生ほ場率(%)	発病株率(%)
県西部	20	12	60.0(52.3)	1.7(2.9)
県東部	6	6	100	7.8
県中部	10	9	90.0	6.6
県全域	36	27	75.0	4.1

※( )内の数値はH17年～26年の4月下旬における平年値。春ネギを対象に調査。

表2 ネギさび病の主な防除薬剤（平成28年3月16日現在の農薬登録内容）

薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	成分
アミスター20フロアブル	2000倍	収穫3日前まで	4回以内	アゾキシストロビン
オンリーワンフロアブル	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	テブコナゾール
カリグリーン	800倍	収穫前日まで	-	炭酸水素カリウム
ジマンダイセン水和剤	600倍	収穫14日前まで	3回以内	マンゼブ
ストロビーフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	クレソキシムメチル
ベルコート水和剤	2000倍	収穫30日前まで	3回以内	イミノクタジン (アルベシル酸塩)
ペンコゼブフロアブル	500~600倍	収穫14日前まで	3回以内	マンゼブ
ラリー水和剤	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	マイクロブタニル
ラリー乳剤	4000倍	収穫14日前まで	3回以内	マイクロブタニル

表3 成分ごとの総使用回数（平成28年3月16日現在の農薬登録内容）

成分名	FRACコード <sup>1)</sup>	総使用回数
アゾキシストロビン	11	5回以内(粒剤は1回以内、水和剤は4回以内)
イミノクタジン (アルベシル酸塩)	M7	3回以内
クレソキシムメチル	11	3回以内
炭酸水素カリウム	NC	-
テブコナゾール	3	3回以内
マンゼブ	M3	3回以内
マイクロブタニル	3	3回以内

1) FRACコード(殺菌剤コード)

殺菌剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のこと。

本コードが異なる薬剤を使用することで、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。